

研修コーナー

EXERCISE 1

女性思春期のホルモンバランス

Q 1 思春期に発来する 1) 初経, 2) 恥毛の発生, 3) 子宮の発育, 4) 乳房の発育, の諸現象のうち正しい発来順はどれか。

- a) 4—2—1—3
- b) 2—4—1—3
- c) 1—4—2—3
- d) 4—1—2—3
- e) a) ~ d) のいずれでもない。

Q 2 思春期におけるエストロゲンの作用として正しいものはどれか。

- a) 第二性徴の発現や初経の発来を惹起する。
- b) 骨や恥毛, 腋毛の発達に重要である。
- c) 思春期後半に骨端線を閉鎖し, 骨の成長を停止させる。
- d) a) と c)
- e) a) ~ c) のすべて。

Q 3 思春期前後のゴナドトロピン (Gn) の分泌について正しいものはどれか。

- a) 幼小児期では, すでに Gn 分泌は亢進し律動的分泌パターンもみられる。
- b) 思春期前後では, Gn 分泌に対する negative feedback 機構がまだ強力に作用している。
- c) 思春期前期には, 夜間睡眠時の Gn 分泌亢進, 律動的分泌亢進がみられる。
- d) エストロゲンによる positive feedback 機構は, すでに思春期前期に完成する。

Q 4 思春期に発生するホルモン異常について正しいものはどれか。

- a) 思春期早発症では, 性ホルモン値のみ高値を示し, ゴナドトロピン値は年齢相応に低い。
- b) 15歳までに初経がみられなければ器質的疾患を疑い, 無月経の診断・検査を行う。
- c) 思春期にみられる無月経は, 下垂体の機能異常によるものが多い。
- d) a) ~ c) のすべて。

Q 5 思春期における内分泌異常の治療について正しいものはどれか。

- a) 初経後にみられる排卵障害については, 迅速で積極的な治療が必要である。
- b) 体重減少やストレスのように明らかな誘因のある無月経は, 治療の対象となる。
- c) 異性型を示す早発思春期症には, GnRH アゴニストが用いられる。
- d) a) ~ c) のすべて。

(解答は研修コーナーの最終頁にあります)

EXERCISE 2

妊娠の成立・着床

Q 6 ヒトの胞胚について正しいのはどれか。

- a) 約32個の細胞からなる。
- b) 子宮腔内に2～3日間存在する。
- c) 1種類の未分化な細胞集団からなる。
- d) 着床するためには透明帯の消失が必要である。

Q 7 着床時の子宮腔の容積の変化について正しいのはどれか。

- a) 増大する。
- b) 不変である。
- c) 狭小化または閉鎖する。
- d) 一定せず。

Q 8 子宮腔内の生理的着床部位について正しいのはどれか。

- a) 全面
- b) 上半部
- c) 下半部
- d) 側面

Q 9 トロホブラストの浸潤に関係あるものはどれか。

- a) 細胞外マトリックス分解酵素
- b) 細胞運動
- c) 細胞表面接着分子
- d) 細胞障害性物質

Q 10 着床について正しいのはどれか。

- a) 28日型月経周期の女性で着床が可能な子宮内膜の受容期は、月経周期の19～21日と考えられている。
- b) 体外受精・胚移植で着床率が低い原因のすべては、移植する胚の質の不良である。
- c) 着床後、臨床的に妊娠診断が可能な時期までに約30%の胚が死滅するといわれている。
- d) 子宮内膜は閉経後も50歳台ではホルモン投与に反応し着床が可能となる。

(解答は研修コーナーの最終頁にあります)

研修コーナー

EXERCISE 3

妊娠悪阻の診断と治療

Q 11 妊娠悪阻について正しいのはどれか。

- a) 別名, 妊娠嘔吐 (vomiting of pregnancy) ともいう。
- b) 全妊婦の50~80%にみられる。
- c) 妊娠6週頃に現われる。
- d) 妊娠中毒症の初期症状である。
- e) 甲状腺機能亢進症合併は症状を悪化させる。

Q 12 妊娠悪阻の治療に必須とされるものはどれか。

- 1) グリコース 2) 電解質溶液 3) Vit.B₁ (サイアミン)
- 4) 静注用脂肪乳剤 5) 中枢性制吐剤 (メトクロプラミド)
- a) 1-2-3
- b) 1-2-5
- c) 1-4-5
- d) 2-3-4
- e) 3-4-5

Q 13 Wernicke (ウエルニッケ) 脳症の予防・治療に用いられるものはどれか。

- a) Vit.B₁ (サイアミン)
- b) Vit.B₆ (ピドキサール)
- c) 抗うつ剤
- d) 鎮静剤
- e) 絶食療法

Q 14 妊娠悪阻の重症度を表わす指標となるのはどれか。

- a) 尿中ケトン体の増加
- b) 著明な体重減少
- c) 脱水症状
- d) 脳症状の出現
- e) 上記のすべて

Q 15 重症妊娠悪阻で人工妊娠中絶の適応とならないものはどれか。

- a) 頻脈 (120回/分以上) の持続
- b) 高血圧 (収縮期140mmHg 以上)
- c) 体重の著しい減少 (9 kg 以上または300g/日以上) の減少)
- d) 脳症状 (頭痛, 不眠, 嗜眠, 昏睡など) の出現
- e) 治療を行っても代謝性アシドーシスの改善をみないもの

(解答は研修コーナーの最終頁にあります)